

麻痺の後遺症の方に勧めてみませんか？

～**歩行や生活、介助が変化する**治療の提案です～②

松村総合病院 リハビリテーション課

脳卒中認定理学療法士 長谷川和貴



目的

下肢痙縮を呈した方・症状を見ていただき、
周囲で同じ症状を呈している方にお声掛けして頂きたい。

本日の流れ

- 下肢痙縮の症状
- 当院での下肢痙縮の評価と治療
- 症例提示

下肢痙縮の症状

股関節の屈曲



股関節を伸ばす事が困難になる。
ベッド上での肢位が限定されたり、
立位保持が困難になる。

股関節の内転



足を開く事が困難になる。
陰部の清潔保持や
排尿動作が困難となる。

膝関節の屈曲



膝を伸ばす事が困難になる。
立位や移乗動作が不安定になる。

尖足・内反尖足



つま先を持ち上げる事が困難になる。
立位や歩行が不安定になる。
重度の場合、装具の変形を来すこともある。

足趾屈曲



足趾が曲がり伸びなくなる。
足趾や爪が地面にぶつかる事で疼痛が誘発されたり、
歩行が不安定になる。

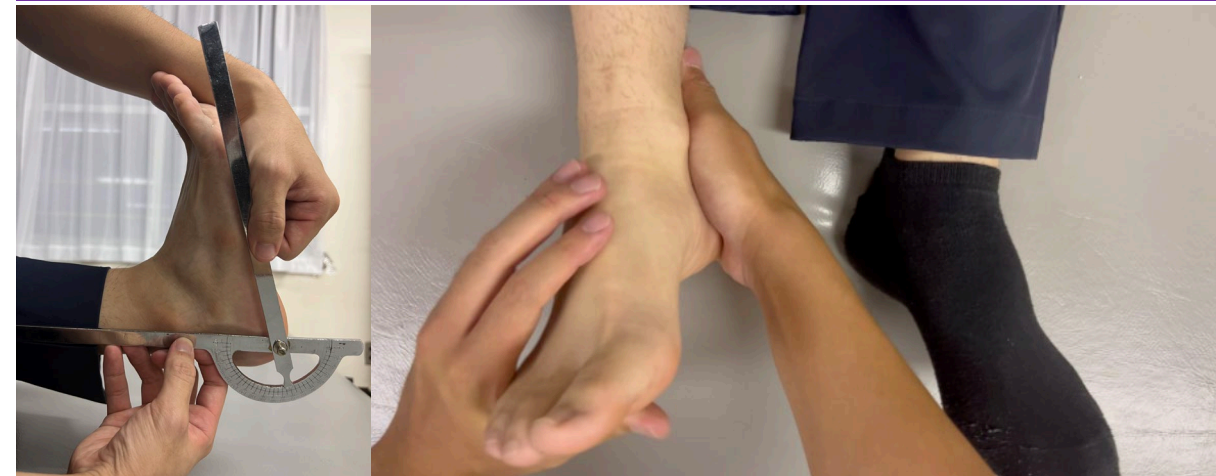
母趾過伸展



母趾が過剰に伸びてしまう。
靴を履く事ができなくなる場合がある。

下肢痙縮の評価

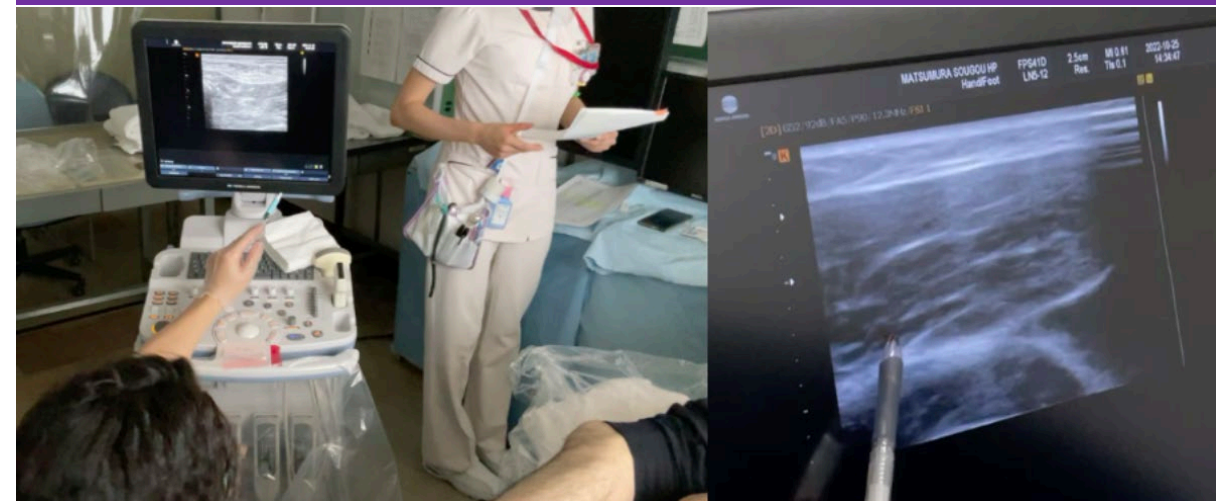
関節可動域・筋緊張



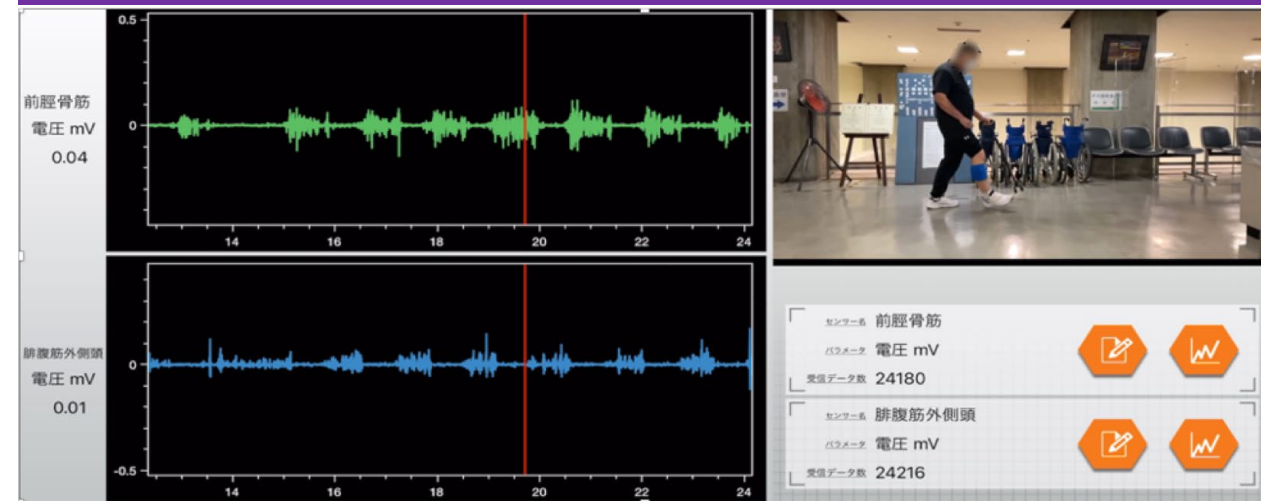
運動機能



超音波



表面筋電図



下肢痙縮の治療

ボツリヌス療法



薬剤を筋肉に注射する事で、過緊張を和らげる事ができます。

電気刺激療法



麻痺で動かす事ができない筋肉に電気を流し、アシストしながら運動を行います。痙縮の軽減に効果があります。

振動刺激療法



筋緊張の高い筋肉に振動を加える事で、痙縮の軽減に効果があります。

装具療法



装具を用いる事で関節の動きを補助する事ができます。正しい運動が行えるようになる事で、痙縮の軽減に繋がります。

ストレッチ



筋緊張の高い筋肉を持続的に伸ばす事で、痙縮増悪の予防に繋がります。

自主練習やADL動作指導



退院後も継続した運動が行えるようにノートを作製しています。

症例紹介（下肢痙縮）

ボツリヌス療法 症例① 足趾の痙縮により疼痛に悩んでいた

* 紹介した症例は臨床症例の一部を紹介したもので、
全ての症例が同様な結果を示すわけではありません。

発症

約2年後(初回)

施注後約1ヶ月

現在



ROM : 2~5足趾MP伸展20° PIP伸展-15° DIP伸展-5°
MAS : 2~5足趾屈筋群1+
疼痛 : NRS5

ボツリヌス療法

腓腹筋内側頭	30単位
腓腹筋外側頭	30単位
ヒラメ筋	40単位
後脛骨筋	40単位
長趾屈筋	30単位
長母趾屈筋	30単位



ROM : 足趾MP伸展20° 足趾DIP伸展-15° 足趾PIP伸展-5°
MAS : 2~5足趾屈筋群1
疼痛 : NRS3

足趾や足底の疼痛が軽減された事で運動意欲が向上し、外出頻度が向上した。

ボツリヌス療法 症例② 下肢痙縮により陰部の清潔保持が困難だった

* 紹介した症例は臨床症例の一部を紹介したもので、
全ての症例が同様な結果を示すわけではありません。

発症

約70年後(初回)



ROM : 股伸展-70/-30° 股外転0/20° 膝伸展-100/-90°
MAS : 股内転筋群3/3 膝屈曲筋群3/3
介助 : 陰部清拭やおむつ交換をするのに3人必要。

ボツリヌス療法

	右/左
長内転筋	50/40単位
短内転筋	50/40単位
大腿二頭筋	/40単位
半腱様筋	50/40単位
半膜様筋	50/40単位

施注後約1ヶ月

現在



ROM : 股伸展-50/-20° 股外転10/40° 膝伸展-100/-90°
MAS : 股内転筋群2/1+ 膝屈曲筋群2/1+
介助 : 陰部清拭やおむつ交換が1人で可能。

陰部の清拭やおむつ交換時の介助量が軽減し、3人介助から1人介助で可能になった。

ボツリヌス療法 症例③ 内反尖足により装具が変形していた

* 紹介した症例は臨床症例の一部を紹介したもので、全ての症例が同様な結果を示すわけではありません。

発症

約3年後(初回)

施注後約1ヶ月

現在

ボツリヌス療法

半腱様筋	40単位
半膜様筋	60単位
大腿二頭筋	40単位
腓腹筋内側頭	40単位
腓腹筋外側頭	40単位
ヒラメ筋	80単位
後脛骨筋	40単位
長母趾屈筋	40単位
長趾屈筋	20単位

ROM : 膝伸展-30° 足背屈-5°
MAS : 膝屈曲筋群2 足底屈筋群3
10m速度: 49秒

ROM: 膝伸展-10° 足背屈0°
MAS: 膝屈曲筋群1 足底屈筋群2
10m速度: 22秒

装具の再作製を実施。自宅内で歩く機会が増え、車で出かけるなど活動範囲の拡大に繋がった。

ボツリヌス療法 症例④ 一人暮らしで歩行の安定性に不安を抱える

* 紹介した症例は臨床症例の一部を紹介したもので、
全ての症例が同様な結果を示すわけではありません。

発症

約4年後(初回)



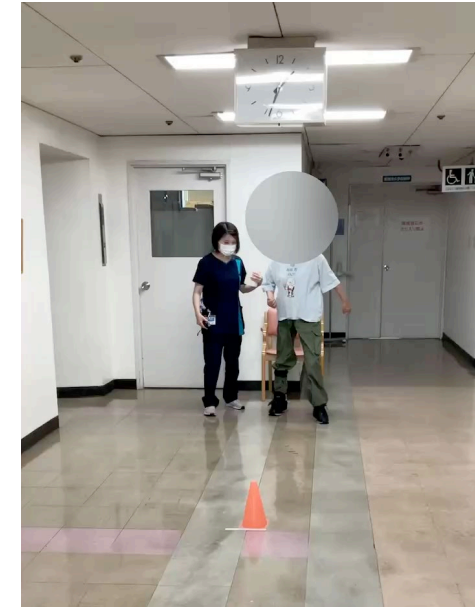
ROM : 足背屈5° 足趾MP伸展40°
MAS : 母趾屈曲筋2 2~5足趾屈曲筋2
10m速度 : 22秒

ボツリヌス療法

長母趾屈筋 50単位
長趾屈筋 50単位

施注後約1ヶ月

現在



ROM : 足背屈5° 足趾MP伸展40°
MAS : 母趾屈曲筋0 2~5足趾屈曲筋0
10m速度 : 16秒

自宅内では裸足で生活をされている。浴室内での歩行や立位安定性が向上し、不安が軽減した。

まとめ

- ボツリヌス療法は、医学的に推奨されている治療です。
- 地域には、痙縮に悩んでいる方が多くいます。
- 地域スタッフの方々の『気づき』で治療に繋がる方がいます。

麻痺の後遺症の方に勧めてみませんか？

〈医療連携室〉

- 0246-22-9934
- 平日8：30～17：00 土曜日8：30～12：15
- 日祝・第3土曜日休み



詳細は当院HPより

- matsumura.reha@gmail.com